

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターSun		
○保護者評価実施期間	令和7年10月1日		～ 令和7年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	84	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日		～ 令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育による丁寧なこどもへの支援	・こども1人に担当職員2人を配置し、こどもの発達段階や特性に合わせた対応ができる体制の下で療育を実施している。また、療育実施後には担当職員2人で療育の振り返りを行い、療育1回毎に評価から目標設定のプロセスを丁寧に行っている。	・今後もこども1人に担当職員2人の配置を活かした丁寧な努力とともに、法人内外の研修を積極的に受講するなどして、職員のスキルアップを図ること。
2	・個別療育による丁寧なご家族への支援	・療育中はご家族に担当職員を配置し、療育内容の流れや意図の説明を行うとともに、相談支援も行っている。また、年間10回程度のご家族向け研修会も開催している。	・療育中の支援に加えて、療育以外でも必要に応じて個別の電話相談や面談を実施するなどして、ご家族の安心にもつなげること。 ・ご家族向け研修会はオンラインでの実施も検討すること。
3	・アセスメントの充実	・年度当初には発達検査を実施し、その結果やご家族からの情報を基に丁寧なアセスメントを行い、その内容を個別支援計画書および療育計画に反映させている。	・より丁寧なアセスメントを行うためのインフォーマルな評価の導入や現状のアセスメントを今後も継続していくための人材育成。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人材育成の仕組みが不十分	・こどもやご家族の支援を担う職員を継続的に育成するための具体的な計画とその実行に欠ける部分がある。	・人材育成を継続的に行うためのスキームづくりとその実行。
2	・地域に向けた発信が不十分	・業務負担の兼ね合いもあり、地域に向けた発信ができていない。	・ホームページやグループマップ、SNS等を活用し、事業所の取り組みを地域に向けて発信できるようにすること。
3	・個別療育の事業所であるため、こどもの集団での困りごとを十分に把握できていない場合がある	・職員がこどもの集団での様子を直接見る機会がなく、集団での困りごとを意識したりイメージしたりするのが難しい面がある。	・こどもの所属先からの見学の受入れや情報共有を積極的に行い、必要な情報収集ができるようにすること。